

### 3 役職に応じた教育訓練

消防の活動は、役職に応じその役割が異なることから、それぞれの役職に応じた訓練内容を検討する必要がある。

ア 指揮者・・・ 隊や活動全体の安全管理のため、状況に応じた確な判断能力を養成することが必要である。

イマジネーションを高めるため、図上訓練やKYTといった訓練が有効である。

イ 隊員・・・ 個々の作業の安全性を向上させるため、反復訓練による基本行動の徹底が必要である。

慣れ・マンネリ化を生じないよう新たな条件を付加するなど訓練に新たな刺激を与えることが有効である。

災害現場には一つとして同じ状況はないため、フラッシュオーバー、活動障害など様々な想定を取り入れ、状況判断能力、イマジネーションを高めることが何よりも必要であることを強調しておきたい。

また、責任の分散を防ぐため、指揮者の災害現場全般にわたる最終的な責任の所在の明確化が必要である。

東京消防庁が濃煙熱気内における消防職員の行動と心理的影響に関する研究において実施したアンケート調査結果では、教育訓練機会からしばらく遠ざかっている消防士長の階級にある職員のヒヤリハットに関する認識が一番低かった。このことは、ベテランでも教育訓練の機会から遠ざかると安全意識が低下することを示しており、従って、職員全員が定期的に教育訓練を受けることが必要不可欠であるといえる。

### 4 五感いきいき安全プログラム

#### (1) 五感いきいき安全プログラムとは

作業者の安全意識を高め、維持することを目的として正田亘氏(立教大学名誉教授、常磐大学教授)により開発された新しいタイプの安全教育プログラムである。

人間が本来持つ五感【視覚・聴覚・味覚・触覚・臭覚】の働きを再認識させて、作業中における作業者の五感の働きを高め、自然に安全な行動がとれるようにすることを目的としたゲーム方式のトレーニングであり、例えば、敏捷性を見る「棒づかみ運動」や平衡感覚を見る「開眼一本足運動」といった、年齢、学歴、性別に関係なく、どのような階層の人にも理解しやすく、始業時や終業時、休憩時間等に短時間で手軽に行える内容となっている。

#### (2) 導入による効果

加齢とともに運動機能(筋力、瞬発力、持久力、調整力、敏捷性)及び感覚機能(視